

平成19年9月3日
消 防 庁

「救急の日」及び「救急医療週間」の実施

「救急の日」及び「救急医療週間」は、救急医療及び救急業務に対する国民の正しい理解と認識を深め、救急医療関係者の意識の高揚を図るため例年実施されています。本年も全国の消防機関及び医療機関を中心に一斉に実施されます。

【資料】

「救急の日」及び「救急医療週間」の実施について

- ・ 救急の日 9月9日(日)
- ・ 救急医療週間 9月9日(日)～9月15日(土)
- ・ 「救急功労者消防庁長官表彰式」 9月10日(月)
- ・ 「救急の日2007」 9月13日(木)、14日(金)

(連絡先)

消防庁救急企画室

担当：荒木課長補佐 佐藤(幸)事務官
中嶋事務官

電話：03-5253-7529(直通)

FAX：03-5253-7539

「救急の日」及び「救急医療週間」の実施について

1 行事の趣旨

「救急の日」及び「救急医療週間」は、救急医療及び救急業務に対する国民の正しい理解と認識を深め、かつ、救急医療関係者の意識の高揚を図るため、昭和57年度から実施されているもので、本年度も期間中全国の消防機関及び医療機関が中心となって、その趣旨に合わせた行事が開催されます。

2 平成19年度の期間等

「救急の日」：9月9日（日）

「救急医療週間」：9月9日（日）～9月15日（土）

3 消防庁等における実施行事等

（1）「救急の日2007」の開催

① 日時 平成19年9月13日(木) 12:30～19:00
9月14日(金) 10:00～17:00

② 場所 新宿駅西口広場イベントコーナー

③ 行事内容

i 開会式 13日（木） 12:30～12:40

ii 救急蘇生法の普及、救急救命処置の実演等

iii 救急自動車の展示、世界の救急自動車ミニカー展示（13日のみ）他

④ 主催

総務省消防庁、厚生労働省、（財）日本救急医療財団、日本救急医学会

（2）救急功労者消防庁長官表彰式

自治体消防60周年と節目の年度でもあり、平素から救急業務の推進に功労し、公共の福祉の増進に顕著な功績があった個人及び団体を消防庁長官が表彰するもので、本年度の受賞者は個人14名及び2団体となっています。

① 日時 9月10日(月) 13:00～13:40

② 場所 KKRホテル東京11階「朱鷺の間」

③ 受賞者 別紙1のとおり

④ 受賞者の紹介 別紙2のとおり

(3) 「救急の日」ポスター

今年度のポスターのテーマは、「人工呼吸、心臓マッサージ、AED。救命のリレーにどうか、あなたの力を貸してください。」で、救急車が到着するまでの間に行う応急手当の必要性を伝えるとともに、救命講習を受けて頂くことを呼びかける内容となっています。また、真に救急を要する方への対応が遅れることがないように、救急車の適正な利用をお願いする内容になっています。



(4) ホームページへの掲載

消防庁のホームページ (<http://www.fdma.go.jp>) に「救急の日」及び「救急医療週間」の消防庁における行事概要及び応急手当要領・自動体外式除細動器 (AED) を含んだ応急手当普及啓発コマーシャル等を掲載しています。



4 消防機関における実施行事等

全国の消防機関においても期間中様々なイベントを開催します。

平成19年度救急功労者消防庁長官表彰受賞者名簿

〈個人表彰〉

(50音順)

いしはら	しん	60歳	公立邑智病院院長	(広島県推薦)
石原	晋			
うえはら	はるお	62歳	京都府医師会副会長	(京都府推薦)
上原	春男			
うちむら	まさゆき	74歳	内村クリニック院長	(静岡県推薦)
内村	正幸			
おしぶち	ひで のぶ	68歳	医療法人社団壮志会押渕病院理事長	(長崎県推薦)
押渕	英展			
かわにし	のりお	66歳	社団法人札幌市医師会副会長	(北海道推薦)
河西	紀夫			
ささき	あきら	63歳	松江市立病院救急集中治療センター長	(島根県推薦)
佐々木	亮			
さとう	しげゆき	73歳	社団法人大崎市医師会会長	(宮城県推薦)
佐藤	重行			
すぎやま	みつぎ	65歳	公立大学法人横浜市立大学名誉教授	(神奈川県推薦)
杉山	貢			
たけだ	かずまさ	61歳	社団法人富山県危険物安全協会連合会事務局長	(消防庁推薦)
武田	和正			
へんみ	ひろし	65歳	独立行政法人国立病院機構 災害医療センター院長	(東京都推薦)
邊見	弘			
ましこ	くにひろ	59歳	日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター長	(千葉県推薦)
益子	邦洋			
やまだ	じつひろ	63歳	特定医療法人厚生会木沢記念病院 理事長	(岐阜県推薦)
山田	實紘			
よしおか	としはる	61歳	地方行政独立法人大阪府立病院機構 大阪府立急性期総合医療センター副院長	(大阪府推薦)
吉岡	敏治			
よしざわ	かずひこ	65歳	財団法人救急救命東京研修所研修部 参事兼研修課長・教授	(消防庁推薦)
吉澤	一彦			

〈団体表彰〉

かぶしがいしゃひたちせいさくしよひたちそうごうびょういん	(茨城県推薦)
株式会社日立製作所日立総合病院	
にほんせきじゅうじやわかやまいりょう	(消防庁推薦)
日本赤十字社和歌山医療センター	

以上 個人14、団体2

受賞者の紹介

救急功労者消防庁長官表彰は毎年、救急救命士や救急隊員への教育指導に積極的に取り組んでこられた方や、地域メディカルコントロール協議会等の救急医療体制の構築に尽力された方など救急業務の高度化に貢献のあった方々が受賞されていますが、特に、今回の表彰で特徴のある功績により受賞された方々を紹介します。

1 救急救命士初の受賞

救急救命士制度運用15周年にあたり、初めて救急救命士が救急功労者表彰を受けます。富山県の武田和正様は応急手当指導を積極的に実施しており、応急手当の普及啓発に貢献された功労です。また、東京都の吉澤一彦様は常に指導的立場で救急救命士の教育・育成に貢献された功労です。

2 「中学生のための救急蘇生講座」1万人を超える

静岡県の内村正幸様は病院長として勤務する傍らボランティアとして始めた「中学生のための救急蘇生講座」の中心的役割を担っており、平成18年には受講中学生が1万人を超えるなど応急手当の普及啓発に貢献された功労です。

3 気管挿管認定救急救命士の養成

和歌山県の日本赤十字和歌山医療センター様は救急救命士の気管挿管実習受け入れ病院として全国トップクラスの気管挿管認定救急救命士を養成するなど救急救命士の技術と知識の習得に貢献した功労です。

4 災害時の消防と医療の連携

独立行政法人国立病院機構災害医療センター院長の邊見弘様は災害時における消防機関と医療機関との連携について医学的観点から提言するなど救急業務の高度化に貢献された功労です。

5 ドクターヘリの積極的運用

日本医科大学千葉北総病院救命救急センター長の益子邦洋様は救急隊員への教育・育成に尽力するとともに、ドクターヘリの導入とその積極的な運用により救急医療体制の構築に貢献された功労です。